

## 育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。
- (思・判・表) 家族の安全を考えた住空間の整え方の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (主体態) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとする。

## ICT活用のポイント

互いの家庭内の事故とその対策の共有の工夫

### 【つかむ】

住まいの役割について話し合い、学習の見通しをもつ。

### 【追究する】

間取りを役割ごとに分類し、住まいの空間の役割について整理する。

和式と様式の住まいの特徴を話し合う。

家庭内での事故の対策を話し合う。

自然災害や犯罪への対策を話し合う。

### 【まとめる】

学習したことを家庭で実践し、実践したことを評価、改善する。

## 事例の概要

- 家庭内の事故のイラストに、想定される事故とその対策を書き込む。
- 学習支援ソフトを通して家庭内の事故のイラストに書き込んだ想定される事故とその対策を提出し、全体で共有しながら互いの考えを比較する。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- ICT端末上の家庭内の事故のイラストに、タッチペンを用いて想定される事故とその対策について印をつけたり記述したりする。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 学習支援ソフトを通して、家庭内の事故のイラストに書き込んだ想定される事故とその対策についての互いの考えの共通点や相違点を見いだす。

# 【技術・家庭（家庭分野）・中1・住生活】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



家庭内事故の対策を考える際に、学習支援ソフトで配布された家庭内事故のイラストをICT端末上で確認した。生徒は、家庭内事故の各イラストを拡大しながらその状況を把握し、事故を想定していた。そして、各事故を防ぐための対策を記述したり見直したりするなど、試行錯誤しながら自らの対策を明確にしていた。

生徒にとって家庭内事故のイラストのように、一つのイラストの中に複数の情報があり、それらについて対策を短時間で見いだすことは難しい。ICT端末上で内容を確認することで、周りの生徒の発言等に影響されることなく、自らが着目したい家庭内事故を具体的に想定することができる。また、想定した事故とその対策をICT端末上で印を付けたり記述したりすることで、容易に修正、追加しながら、自らの対策を具体化できる。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト

## 【事例におけるICT活用の場面②】



想定した事故とその対策について見直す際に、学習支援ソフトで自らと友達の想定した事故とその対策を比較した。生徒たちは、互いの想定した事故とその対策を比較し、共通点や差異点を見いだしていた。教師は、生徒の想定した事故とその対策を紹介しながら、見いだした共通点や差異点を基に、自らの対策を見直すよう促した。生徒は、自ら想定した事故とその対策を修正したり、計画の確かさを自覚したりすることで、自らの想定した事故とその対策を納得した内容にすることができた。

想定した事故とその対策のように、課題に対してもった自分なりの考えは、自分自身で納得している部分があるため、改めて見直すことに抵抗がある場合がある。学習支援ソフト上で、即時に友達の対策を確認したり、自らの対策を容易に修正、追加したりすることで、対策の根拠がさらに付け加えられるなど、自らの対策を納得した内容にできる。

【活用したソフトや機能】 ・学習支援ソフト